

社会福祉法人永山会 令和元年度事業報告

1 総括報告

(1) 経営組織のガバナンス(管理体制)の強化

- ① 健全な組織運営を管理するために次世代を担う若手の管理者を登用し、外部講師や顧問会計事務所や顧問社労士などに研修会や勉強会を依頼し教育に努めた。
- ② 財務管理を信頼性のあるものにするために、事務職員の業務を整理し業務分担を明確化し会計業務についてのチェック体制を強化した。
- ③ 介護保険法や老人福祉法、高齢者虐待防止法を繰り返し学び、法令遵守に努めた。介護記録や介護報酬に係る書類の整理や確認に努め、不正な行為や、ヒューマンエラーを根絶して公平公正な事業運営に努めた。
- ④ まどかⅡ番館デイサービスセンターは令和元年6月よりモーニングサービスを始め利用者や家族には好評を得ている。ストレッチ用のリハビリ器具やテレビゲーム等を準備して居宅支援事業所回りをしているが集客がふるわず大幅な赤字経営になった。

(2) 高品質のサービスの提供

- ① まどかⅡ番館特別養護人ホームが第三者評価を令和2年3月に受審予定であったが、新型コロナウイルス流行のため延期となり次年度の課題となった。
- ② 介護技術の講習会を勤務時間内に数回実施することで、派遣職員やアルバイト職員が参加しやすい環境となり技術の向上に努めた。
- ③ 毎月の行動目標を主任会議で設定し、標語として法人理念と共に朝礼で復唱することで職員の意識を高めた。

(3) 職員の定着、人材育成

- ① 介護職員特定処遇改善加算の創設に伴い、キャリアパスを見直した、今後はキャリアパス、を活用し職員のモチベーションアップに繋げたい。

(4) リスクマネジメント

- ① 家族会アンケートで要望のあった施設の環境整備(清掃)については担当表やチェック表を活用することで一定の成果が見られた。
- ② 令和2年2月より新型コロナウイルス対策としてマニュアルの整備を繰り返し行い、職員の予防に対する意識が向上している。また、家族に面会自粛を要請しているため、日々の様子を細かく報告(写真やブログ)できるように仕組みづくりした。
- ③ 伏見消防署及び南浜学区消防分団の指導の下、「普通救命講習」をまどかⅡ番館会議室で開催して、56名の職員が普通救命カードを取得した。
- ④ 介護老人福祉施設まどかの自主防火管理体制の充実(避難訓練、消防計画等)が評価され令和2年3月12日に伏見消防署から表彰状が授与された。

(5) 施設設備・備品購入 (50万円以上)

設備名・購入品名	日付	部署名	費用
乗用車	令和元年5月	本部	155万円
厨房のエアコン	令和元年9月	しがそせい苑	90万円
特養エアコン室外機修繕2基	令和元年11月	しがそせい苑	143万円
特殊浴槽	令和2年3月	しがそせい苑	490万円
鳩の駆除	令和2年3月	しがそせい苑	138万円
シャワーストレチャー	令和2年3月	まどかII番館	53万円
パソコン(52台)	令和2年3月	本部、そせい苑、まどか、しがそせい苑	770万円

2、法人役員、評議員、評議員選任・解任委員

(1) 役員・評議員・評議員選任・解任委員 平成31年(令和元年)4月1日現在

役職	定数	氏名
理事	6	津田知宏(理事長)、津田節子、前野芳子、山元安子 津田宏尚、宮川哲子
評議員	7	橋本長平、山本富夫、木村研志、堀出亀與嗣、 池上喜之、吉澤英樹、鍵和田良学
監事	2	山内幸雄、原田哲夫
評議員選任・ 解任委員	3	岸田光彦、山内幸雄、千代宜彦

(2) 就任・退任役員

	役職名	氏名	日付	備考
就任	評議員	山本光男	令和2年4月1日	令和2年度会計の最終のものに関する定時評議員会の終結時まで。
退任	評議員	山本富夫	令和2年3月31日	

3、理事会開催状況

理事会	第1回	令和元年6月2日	平成30年度事業報告(案)について 平成30年度決算報告(案)について 社会福祉充実残額(案)について そせい苑第三者委員(案)について 次期役員(理事・監事)候補者の推薦提案につて 評議員開催及び議案の提案について
-----	-----	----------	---

理事会	第2回	令和元年6月23日	報告事項 理事長選任について
	第3回	令和元年12月1日	令和元年度上半期事業報告について 令和元年度上半期会計報告について そせい苑デイサービス定員変更について 評議員選任・解任委員会 補欠委員の選任について 介護職員等特定処遇改善加算について、 就業規則の変更について 独立行政法人福祉医療機構 借入金任意繰上げ返済について 報告事項
	第4回	令和2年3月1日	令和元年度補正予算(案)について 令和2年度事業計画(案)について 令和2年度予算(案)について 独立行政法人福祉医療機構借入金任意繰り上げ返済について 評議員辞任による候補者決定について 報告事項

4、評議員会開催要項

評議員会	定時評議員会	令和元年6月23日	平成30年度事業報告(案)について 平成30年度決算報告(案)について 社会福祉充実残額(案)について、 役員(理事・監事)改選(案)について 報告事項
------	--------	-----------	--

5、第三者委員

令和2年3月31日現在

施設名	人数	氏名
そせい苑・まどか・まどかⅡ	2	吉澤秀樹・寺田次輝
しがそせい苑	4	鍵和田良学・山本光男・齋藤恵・岩澤千眞理

6、法人借入償還金状況（令和2年3月31日現在）

単位：千円

借入先	当初借入額	償還済額	当期減	借入残額	償還期限	施設名
独立行政 法人福祉 医療機構	350,000	315,000	17,500	35,000	2021.11.10	しがそせい苑
	350,000	116,260	19,344	233,740	2032.4.10	まどか
	200,000	3,827	3,827	196,173	2037.12.10	まどかⅡ番館

7、職員状況

職員総数 221人

令和2年3月31日現在

	そせい苑・まどか・まどかⅡ		しがそせい苑	
	人数		人数	
本部長	1		—	
総苑長	1		—	
施設長	2		1	
事務職	6		3	
管理栄養士	2		2	
相談員	8		4	
ケアマネ	11		3	
保健師	2		1	
社会福祉士	2		—	
看護職	16	派遣5名を含む	9	派遣2名を含む
機能訓練	5		2	
介護職	73	派遣32名を含む	54	派遣12名を含む
その他	1		12	派遣1名を含む
合計	130		91	

8、人材紹介

	人数	職種（人数）	費用
京都	14	介護士（6）、介護福祉士（2）、 介護支援専門員（1）、看護師（2）、 機能訓練指導員（1）、社会福祉士（1）、 社会福祉主事（1）	909万円
滋賀	3	介護福祉士（2）、看護師（1）	253万円
			1162万円

9、サービス事業所活動報告

（特別養護老人ホームそせい苑・ショートステイ）

① 重点目標・最終評価

利用者が安心して充実した生活が送れるよう3ヶ月に1度サービス担当者会議を開催し、家族からの要望や介護上での課題の検討、見直しを行うことができた。また、参加職員が記録システムや連絡ノートに内容を記載し、多職種と情報共有を図り個別的ケアにも繋げることが出来ているが、記録漏れや介護内容の変更について周知できていないこともあったため今後は改善を要する。

看取り介護においては、最期までその人らしく過ごして頂くことを目標として、年度内に8名の利用者を見送った。家族を含めた多職種協働を重点におき、嗜好品の提供や家族が寄り添えるよう個室を提供し、本人と家族が穏やかに過ごせる空間作りに努めた。面会時には、職員間で声を掛け合い、家族に近況報告を伝えることができたが、苦情・要望等については、利用者や家族からの声を十分に拾えなかった。今後は、利用者や家族の要望や苦情をしっかりと聞き、改善策を掲示していきサービスの質の向上に繋げていく。

余暇活動については、「作る」「食べる」の両方を楽しむ「わくわくデー」やレクリエーションクラブやボールやタオルを使った体操などの行事を、毎週木曜日にダイフロアで継続して行うことができ、利用者の楽しみになっているので今後も継続していきたい。また、環境整備については、感染症対策としての消毒やリビング・トイレ掃除、換気については毎日行ったが、居室掃除ができていない時があった。新型コロナウイルス流行後は、再度掃除チェック表を活用し漏れがないよう徹底できているので、今後も継続して清潔保持及び感染症を予防していく。

(そせい苑老人デイサービスセンター)

① 重点目標・最終評価

サービス担当者会議や居宅訪問で知り得た情報やニーズを通所介護計画書に具体的に落とし込む事ができなかった。今後は、個別ニーズに応じた通所介護計画書を作成しモニタリングを充実させ、自宅での自立した生活が継続できるよう介護サービスに努める。

新しく導入した機能訓練器具（楽々ふみふみ）、介護予防型体感ゲーム（ほっとプラス）は「あれしたいこれしたい」と声が聞かれるようになり定着しつつあるが、個別に応じた上下肢筋力の低下予防や認知症予防を目標設定としてプランに位置づける事ができなかった。

稼働率については、各事業所への訪問活動、空き情報を書面での送付を毎週土曜日に継続して行っているが、新規の利用者の獲得には至らず稼働率が低迷した。今後はチラシ等を順次更新し、常に新しい情報を基に訪問活動にあたり新規利用者の獲得に努める。

機能訓練指導員が各家庭に定期的に訪問し、自宅での過ごし方やデイサービス利用中の過ごし方について情報を共有し、出来る限り在宅生活が継続できるよう個別機能訓練を実施する事ができた。

(そせい苑ケアプランセンター)

① 重点目標・最終評価

より質の高いサービス提供ができるよう、包括支援センターとの合同事例検討会や、相談員会議での勉強会を実施した。また、伏見区サービス事業所連絡会居宅部会主催の研修(新人研修含む)や下鳥羽ケアマネ連絡会主催の研修などにも積極的に参加（7回）し、個々のスキルアップを図ることができた。

特に医療との連携については、できる限り直接主治医と相談できる関係性の構築をめざし、

往診時の同席や受診同行に加え、意見照会を直接持参し、主治医とは顔の見える関係性を構築する事ができた。

法令遵守に関しては、書類整理チェック表を利用し、書類の整理・確認に努めた。稼働率に関しては、令和元年10月より5名体制から4名体制へ変更したことで、単月での稼働率が100%（担当者数35名換算）を超えたので、今後も維持できるよう努める。

また、年度中に特定事業所加算Ⅰ（500単位/人）の算定を目指していたが、事前提出書類の不備により、主任介護支援専門員の資格取得ができなかった。今後、加算算定できるよう、特定事業所加算の算定要件である週1回の定例会議や地域包括支援センターとの連携などを継続していく。

（下鳥羽地域包括支援センター）

① 重点目標・最終評価

介護予防の重要性が高まる一方で、給付関数が400台となり、高齢者・要支援者・認知症の数は増加の一途を辿り、センターにおいても個別ケースの多様性に加え、認知症の相談ケースが消防・近隣・警察からも寄せられる事が増えてきている。

令和元年度は、これまで地域とともに話し合ってきた「防災」から見えてきた3学区共通の課題「居場所の重要性」について各学区に降ろし、学区ごとの課題などについて具体的に話し合ってきた。その中でも認知症独居で身寄りがなく、徘徊などの行動をとられる高齢者の支援、見守りをどのように地域で実施していくのかが、最大の課題であることがわかったので、今年度は個別の地域ケア会議で「身寄りがなく、生活保護も受けられない認知症独居高齢者・徘徊の見守り体制など」の具体的な症例を取り上げ、学区課題、日常生活圏域の課題へと、地域役員、警察、消防などの関係機関を巻き込み、ボトムアップしていく仕組みを作っていく。

全戸訪問については民生委員、老人福祉員と連携をしながら、年度内までに訪問活動を終わることができ、その中で各サービスに繋げることができたので、今後は健康課題など具体的な課題抽出の有効ツールとしても全戸訪問に取り組んでいきたいと考える。また、健康すこやか教室では特殊詐欺や感染予防についての情報提供を行ってきたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大を受けて2月以降は情報提供、普及啓発ができなかった。また権利擁護としての成年後見人などの情報提供や勉強会などの発信はできていなかったため、今後は積極的に地域に発信していきたいと考えている。

また、介護予防・居場所の目的で立ち上げた公園体操のさらなる後方支援を行い、今後はフォローアップ研修を実施し、地域での介護予防の強化を図っていく。認知症支援については、認知症初期集中支援チームとの連携を強化し、サービスに繋げることができた。また、地域・民間（銀行）などの認知症サポーター養成講座も行うことができたので、今後は現在進めている小学生への認知症サポーター養成講座の開催を3学校の内、1校は開催したいと考えている。

(介護老人福祉施設まどか)

① 重点目標・最終評価

入居者の意向を大切にする介護を目標としたが入居者の情報を収集・共有するにあたり、アセスメントやモニタリングは3ヶ月に1回の実施は出来たが24時間シートの更新は出来なかったため、利用者の生活のサイクルを十分に把握出来なかった。今後は24時間シートを3ヶ月ごとに見直しができる様に実施する。

経験の浅い職員が多く、スキルアップが急務であるが介護技術研修に職員が参加することは出来たが、ユニットに介護技術を持ち帰り、利用者に合わせた介助ができる様に各ユニットで検証が出来ていない為、具体的な介護に活かせなかった。今後はユニットで検証出来る様にユニット会議の議題に盛り込み、ユニットリーダー主体で取り組んでいく。

ブログの更新については家族への情報発信の道具としてブログを更新することに努めた。引き続きブログの更新を実施すると共にご家族等に周知する事でブログの閲覧数を伸ばし、施設での取り組みを知ってもらう。

地域交流の取り組みとして平成24年から月1回開催しているまどかサロンについては今年度は11回開催する事ができ、参加人数も平均すると17名の参加を維持できた。一定の成果はみられるが今後の展開をするにあたり、サロンに関してのアンケートを実施し、今後のサロン運営に意見を取り入れ、近隣住民と施設の距離が近い存在になれるように努める。

(短期入所生活介護まどか)

① 重点目標・最終評価

今年度は目標稼働率を85%としていたが76.8%と届かなかった。まどかショートステイではリハビリに高いニーズがあり、ショートステイを利用しながらリハビリを活用できるように工夫し、稼働率向上に努める。

他事業所訪問は積極的な活動は出来なかったが空所案内を毎週月曜日と金曜日にファックス送信し、送信先を伏見区以外の長岡京市や向日市、南区や久御山町等にも拡大したが新規利用者は毎月5名前後の依頼はあるが短期間の利用が多く、稼働率が向上するまでには至らなかった為、他事業所へ訪問出来る様に計画書を作成し、まどかショートステイをアピールしていく。

清潔感あふれる施設を目指しているが施設の掃除は行えていたがチェック表に記入漏れがあり、利用者が退所された後の掃除の記入漏れが発生していた為、チェック表の活用方法についてユニット会議で検討し、管理体制を構築していく。

レクリエーションやクラブ活動に関しては毎月1回のハッピータイムと称し昼食に鍋やおでん等を実施し、今年も好評であった。今後はハッピータイムの増回やメニューのバリエーションを増やし、利用者により一層楽しんでもらえる企画を実施していく。

(まどかⅡ番館特別養護老人ホーム)

① 重点目標・最終評価

目標としてきた「日常の中に楽しみがあるユニットづくり」に関して、ユニットリーダーが中心となり、ユニット独自で行事を企画したり、ユニット同士で協力しながら利用者の楽しみにつながるイベント（サンドイッチパーティーや縁日など）を実施できていた。日常的には、入居者が自由にのびのびと生活されていることをまどかⅡ番館の強みとして、散歩や買い物に出掛けるなどこれまでの生活を大切にしながら施設での生活をサポートしていく姿勢が継続してみられるようになった。

一方で、そのような日常の様子を介護記録に細やかに残せていないことが課題として挙げられ、ケアプランに沿ったチームケアの施行を今後の課題として取り組む。

また、年度内に2回実施したサービス向上アンケートで抽出された「整理整頓」「清掃」に関する課題に向けて、清掃箇所、頻度を徹底し、施設全体の美しい環境づくりに努めた。

職員にとっての働きやすい環境づくりの結果として、退職者は1名となった。毎月の全体会議やユニット会議などの「話し合いの場」づくりはできているが、機能として不十分であると分析している。

年度末に受診予定であった第三者評価（コロナウイルス感染拡大のため延期）は、令和2年度中に再受診し、客観的なサービス評価を受けて取り組み内容の評価やより良いサービス提供に向けて取り組んでいく。

(まどかⅡ番館グループホーム)

① 重点目標・最終評価

今年度は、認知症ケア加算Ⅰ（※1日3単位/人）を新たに取得しており、収入の増加にも努めた。また、令和2年度に向けて介護福祉士の割合（50%以上）を毎月維持し、目標であったサービス提供体制強化加算（Ⅰ）ロ（※1日12単位/人）の取得を達成した。

毎日の日課として午前の「健康体操」、午後の「レクリエーション」の他、日常的な散歩、定期的な行事企画などを通して、グループホームの目標である「認知症の進行の緩和」「ADLの維持に」努めた。

サービスの向上の1つとして、施設の清掃を強化し、清掃箇所ごとにチェック表を用いて実施状況を確認し、常に清潔に保つことができ、職員の意識、未実施個所についても申し送り表を活用して、時間・日をずらして行う事が共有できている。光熱費の高騰が懸念されるため、次年度は、備品や光熱費などの節約に努める。

客観的なサービス評価として、1月31日に外部評価を受審し、結果はグループホーム会議で職員に共有、外部にもホームページ上のブログで公表した。

地域との関わりは、地域ケア会議（下鳥羽学区・3学区合同）に参加し、地域課題の把握や情報共有、まどかⅡ番館としての広報を行った。

その他、介護相談員派遣事業（※1月に申請が認可され、2月より当該派遣事業を開始で

きたが、コロナウイルスの為現在中止している。)を用いて、入居者・家族の声を汲み取り、サービスの向上に努めた。医療との連携も強化し、新規入所後の初回受診には必ず同行し、顔合わせと日常生活での注意点を確認した。継続して意見書で情報共有するなどの対応を行った。

今後は、現場での介護記録が細かく記録されているので、その内容をケアプランに取り入れて、個別性の高いケアプラン作りに取り組む。

(まどかⅡ番館デイサービスセンター)

① 重点目標・最終評価

今年度も目標に達成することができず、大幅な赤字経営となった。

6月からモーニングサービスを開始し、リハビリにおいてはストレッチを主とした「らくらく踏み踏み」を導入しリハビリに力を入れているが、新規利用者の増加には至らなかった。デイサービスでどのように過ごしたいかのリサーチ不足が原因であると捉える。

年度の中期以降は、自宅への訪問時に生活する中で困っていることを聞き出し、積極的にケアマネージャーと連絡して問題に対して取り組むことが出来ていた。また、サービス担当者会議にも介護職員と共に機能訓練指導員が参加し、長くご自宅での生活を継続できるように、ご自宅での様子をアセスメント、聞き取りを行い、デイサービスでのリハビリ内容を利用者ごとに見直して、取り組み、ADLの維持と利用者の満足度の向上に努めた。

サービス全体の見直しにも着手し、デイサービスで過ごす時間がより充実するように自分で1日の過ごし方を決め、個別性の高いサービス提供を目指した。

また、歩行訓練を目的とした「買い物外出」を開始したり、次月に向けての予定表をお配りし、利用中の方には楽しみを持って利用を継続して頂けるように、また居宅介護支援事業所にも担当利用者のニーズや目的に応じたサービスの利用につなげられるように努めた。

(特別養護老人ホーム しがそせい苑)

① 重点目標・最終評価

介護士、看護師、機能訓練指導員、管理栄養士、相談員、ケアマネ等の多職種でサービス担当者会議を開催し、情報の共有やケアの統一に努めた。しかし、誤嚥性肺炎で入院する利用者が12名であった。口腔ケア委員会を中心に経口維持加算算定を行っているが、経口維持加算算定対象者だけでなく、多くの利用者に対して他職種によるミールラウンドの実施や口腔ケアの充実が今後の課題である。

介護技術を身につけ、標準的な介護を職員全員が行えるよう、介護マニュアルに沿った職員の育成や人材確保を行った。また、利用者一人ひとりの24時間シートを活用し、個別ケアの提供と自立支援を行ったが不十分であったため同じ事故が繰り返し発生した。今後介護方法について、それぞれの職員、職種が他の代替ケアについて考え、提案し、実践し、評価していく仕組みを作っていくことが来年度の課題である。

看取りケアを希望する利用者や家族が増え、今年度は12名の方を施設で看取った。それぞれの利用者の看取りを終えた後、蓮の会を開催し、一人一人の看取り介護について振り返り、多職種で共有する事ができた。また、家族へ利用者の生前の写真と一緒に手紙を送り、家族から感謝の手紙も頂いた。

利用者が、施設でも在宅でも安心・安全に暮らせるように数年前から取組んでいる地域活動も定着し、サロンや夏祭りや運動会、速野学区民の集い等の行事を通して地域との関わりの幅が広がりつつあった。今後も、地域福祉の拠点としての施設の公益性を高め地域社会に貢献していく。

(ショートステイ しがそせい苑)

① 重点目標・最終評価

利用者がケアプランに沿って体操やクラブ活動に参加をできるように働きかけ筋力の維持向上に努めた。またユニット内での日常生活では料理クラブや脳トレーニングや貼り絵、カラオケ等を準備し自己選択できるよう支援した。

定期で利用の認知症の方へのアプローチは認知症研修へ参加した職員を中心に課題等も検討できるようになり検討したことを少しずつではあるが実践できるようになってきた。

利用者ができていること、できていないことを普段の様子等を担当ケアマネージャーや家族に報告し、当苑のサービスの提案も少しずつではあるができた。今後はこのような提案が利用者全員に出来るように担当者が、アセスメント、モニタリングを今まで以上に詳細に行っていきたい。

重度の認知症の利用者が多くなる中、認知症研修へ参加した職員を中心に前年度よりユニット会議等で認知症に対する勉強や関わり方に関する情報交換や情報共有ができ、認知症利用者に対する職員の意識も変わり、その場だけの対応でなく継続的な援助を考えた対応ができてきた。

来年度に向けては、利用者が自分でできることは自分でできるように職員は意識して、その為のモニタリングやアセスメントを行い、また介助が必要な部分への知識や技術の向上に努めていきたい。

安定した稼働率を確保できるようショートステイの空き情報や施設での行事、ショートステイでのイベントを介護支援専門員や家族にPRし新規利用者獲得を目指していく。

(デイサービスセンター しがそせい苑)

① 重点目標・最終評価

施設内通貨「エール」の使い道として日帰り旅行を計画し、5月にはバラ園と足湯、10月には浮見堂に行った。また、職員が案を出し合い、流しそうめん、おにぎりバイキング、ブローチ作り、たこ焼きパーティー、デザートバイキングなど、年間を通して企画を立て、チラシを作成して集客を行った。食事レクは人気があるため、料理やパン・ケーキ作りは毎月行った。

在宅生活を継続するため、毎月デイサービス会議や通所介護計画会議において多職種で通所

介護計画の評価を行っている。また、ADL維持等加算Ⅱを算定するためにバーセルインデックスを毎月測定し、新たに下肢訓練用のレンタル器具を3種類導入して取り組んでいる。

また、認知症への取り組みとしては、認知症基礎研修にデイサービス職員が参加し、認知症委員会から発信されている認知症勉強会をデイサービス会議で行った。認知症の方に対しての個別ケアについて職員間で話し合い、統一したケアを行っている。

(居宅介護支援事業所 しがそせい苑)

① 重点目標・最終評価

要介護状態となっても住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続ける事ができるように、行政・医療・介護サービス事業者や地域住民、民生委員など利用者を取り巻く方々の意見をケアプランに反映するなど、地域で安心して暮らし続けられる為の支援を心掛けた。

認知症の方やその家族に対して地域包括担当者と定期的に訪問し状態の把握に努め必要な支援を行った。

地域ケア会議に事例提供し、個別課題の解決を図ると共にケアマネジメントの実践力を高めるよう自己研鑽に努めている。

施設内や地域で開催される行事やサロンには積極的に参加し身近で顔の見えるケアマネージャーとして、いつでも相談できる環境づくりに努めた。その成果から、大曲町、水保町、今浜町など、地元に住む利用者家族からケアマネージャーの指名を受ける事が多くなっている。だが、入院や入所、死去される方も多くあり、目標であった稼働率90%キープが未達成に終わった。目標達成する為には登録人数を増やす事が課題となった。

(ケアハウス しがそせい苑)

① 重点目標・最終評価

現在入居されている方々は、年間365日毎日休まず行うラジオ体操や下肢筋力維持体操への参加、施設全体のリハビリ体操に意欲的に参加することでADLを維持できている。また年間3回の体力測定を行い、数値推移を見える化することで入居者個々の健康意識が高まったと感じる。また測定の結果から体重減少や血圧変動を発見し、早い時点で家族や関係者に報告することができるようになった。

これまで施設外の行事に積極的に参加してきたこと、また“いきいきサロンあけとみで毎月顔を合わせることで顔なじみの関係を築くことができつつあると感じる。毎年恒例となっている速野小学校卒業生への手作りコサージュを今年も150個作成・贈呈した。

新規入居者の確保については、これまで地道に行ってきた営業活動の成果から、入居申込みをされる方が昨年度より多くみられ稼働率100%を維持することが出来た。